

中田かわら版 11月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会
制作：中田かわら版制作編集委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所
横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい<47>

街道歩き人 びと 榛澤 はんざわ 信義さん (85) 富士見丘 のぶよし



東海道五十三次を3度も完歩した榛澤さん。三度目に歩いた平成22年8月、その集大成というべき「みんなと歩いた東海道」(日本橋から三条大橋まで)を出版した。平成19年4月6日、日本橋を出発、3年越しの22年5月14日、念願の五十三次を7人の仲間(写真左下)とともに完歩した記録だ。40日間、543キロの行程である。広重の55枚の版画を頼りに、現在の風景と対比しながらカメラに収める。自然災害、戦争、都市化などで往年の面影を残しているところは少ないが、絵と同じような風景に出会うと「もう、たまらなく嬉しくなります」。

榛澤さんが65歳で定年になったとき、健康のため1日1万歩を目標に歩いていた。近くに東海道があった。「そうだ、京都を目標に歩こう」。京都と言えば日本橋から京都三条大橋までの「東海道五十三次」は492キロの道のりである。生来、歴史が好きだった榛澤さん、登山マニアでも有名。北アルプスはほとんど征服し、足には自信があった。こうして、平成11年10月、日本橋をスタート、京都三条大橋まで37日間、520キロを初めて完歩。途中で神社仏閣、名所旧跡など立ち寄っている。「朝出発して、休みたいと思うと一里塚や茶店があったりするんです。昔も今も人間の生活はあまり変わらない、と思うんです。人情も分かります。これも魅力です」。

古道や街道にすっかりはまった榛澤さんには、街道歩きに4つのこだわりがある。「歩く街道は原則として近世に往来した街道であること」「街道の起点から終点まで完歩する」「沿道の神社仏閣、名所旧跡など日程が許す限り立ち寄る」「すべて道中記として小冊子に纏める」。こうして作った小冊子は50種以上。踏査した街道は40を超す。主な所は中山道、日光・奥州・甲州道中など「五街道」。さらに「伊勢街道」「北国街道」「水戸街道」「熊野古道」など、全長100～300キロの街道も踏査する。

街道ばかりではない。当初計画したものに、日本列島は北海道から沖縄までの岬と島々をすべて訪ねること(約150か所)。その次は五大陸の中で最高峰の山を自分の目で見ることだった。アジアではエベレスト、北米(マッキンレー)、南米(アコンカグア)、アフリカ(キリマンジエロ)、欧州アルプス(モンブラン)など。これらは近くの展望台へのトレッキングと遊覧飛行からの見物で、いずれも5,000から8,000メートル級の山々だ。

榛澤さんがまとめた「私の街道歩き歴」には、平成11年10月～30年10月までの記録が細かく正確に記録されている。1番目の「東海道五十三次」から43番の「日光東往還」まで43の街道がびっしり。そして最後の1行には「現在も歩行中」とある。今までに歩いた踏査街道は40以上、総歩行距離約7,000キロ、延べ日数が380日は、榛澤さんの見事な勲章である。

『吾妻鏡』に登場する榛澤姓は頼朝の忠臣畠山重忠の家臣榛澤六郎清成であり、榛澤さんはその子孫にあたる。街道に生涯、情熱をかける榛澤さんは、いにしえ「古」のすばらしさを私たちに実感させてくる。(宮田貞夫)



～一人ひとりがCO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～



● 地域と行政を結ぶ民間奉仕者として生涯を捧げた

中田の恩人 井上静子さんを悼む

戦後から今日の中田の地域福祉、人づくりなど公益の多面的活動で知られる井上静子さんが死去した。94歳。平成30年9月27日という日は、私たちにとって忘れることができない日となった。望月榮氏の言葉を借りると「サッチャー井上」であり、上原敏博氏の「中田の恩人」という敬意を尽くした名声は、その通りであろう。その究極にあるものは先見性であり人づくりを通して人のために住みよい地域の実現だった。



井上さんを語るとき、その真骨頂は戦後の混乱期における献身的な行動である。戦争孤児や栄養失調、結核で自宅療養している子供に勉強を教えに行ったり、貧困のお年寄りに給食サービスも行っている。女性の社会参加など、今では普通のことだが当時すでに井上さんは考え、実践している。

昭和26年5月、通商産業省に勤めていた井上正樹氏と結婚し、品川から新居を旧戸塚区中田町（現在の踊場）に住む。踊場自治会の会長を28年間、勤めたことでも有名。その後の活動が目覚ましい。住民の自治、消費生活、児童文化教育、民生・社会福祉、地域防犯、更生保護など広範な活動を、長く務めることが井上さんのポリシーだった。夫の仕事の業務に合わせ海外生活も送る。スペイン、フランス、オランダ、ベルギー、ドイツ、タイ、ASEAN諸国を視察渡航も。こうした体験は自らの社会活動に反映させ現在まで続けてきた。

これら多くの功績に対し数々の受賞歴がすごい。法務大臣賞。厚生労働大臣賞、神奈川県知事表彰、日本赤十字社銀十字表彰、大蔵大臣賞、日本銀行総裁表彰、全国更生保護女性連盟表彰など。平成24年4月、藍綬褒章、30年9月には紺綬褒章の叙勲を受けた。井上さんの生涯は私たちに心の豊かさ、希望を与えた偉大な女性として、永遠にその輝きを失うことはない。合掌。 (編集委員 宮田貞夫)

前中田連合自治会会長 望月 榮さん談

井上さんを私は「サッチャー井上」と呼んでいる。イギリス保守党初の女性党首で「鉄の女」とよばれた偉大な政治家である。中田に「二十日会」を作り、更生保護、民生委員、消費生活などに残した功績は数えきれない。井上さんにはよく叱られた。「私の言うことをよく聞きなさい!」「(連合の役職に) いいから、やりなさい!」が口癖だった。私が中田連合や交通安全、学校関係で長くやってこられたのは井上さんのこうした言葉だった。私を叱ってくれる人がいなくなって寂しい。本当に素晴らしい女性でした。ご冥福をお祈りします。

中田連合自治会会長 上原敏博さん談

「これからは、あなた方が新しい時代の中田を作っていきなさい」と、よくいわれた。また、「与えられた仕事は長く続けていくことが重要、最後までやり抜きなさい」。本当にいろいろなことを教わりました。ある時、井上さんのご自宅に伺ったとき、横綱白鵬の手形をいただいたが、今は私の宝物になった。井上さんは私にとっても地域にとっても中田の最高の恩人でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

泉区更生保護女性部常任理事 小島敏子さん談

初めてお会いしたのは昭和61年12月、立場地区センターが開設した年、第1期のスタッフになったときでした。平成元年に民生委員児童委員になったころ、年齢が親子ほど離れている私を親しく接していただきました。実際に身近で井上さんの活動ぶりをみて、改めてすごい人だと感じました。その行動力の大きさ、発想力の高さ、弛まぬ勉強など。その情報量の多さにもただただ尊敬し見つめていました。折に触れいわれた言葉。「決めたことは最後までやり抜くこと」「辛いことにぶつかっても我慢をして、チャンスを待つ」。さらに「しっかりしなさい」「勉強不足!」など、よく叱られました。でも、それは私への励ましでした。もう、こういう言葉を聞けないと思うと、本当に寂しく支えを失った思いです。今はただただ「ありがとうございました」の思いでいっぱいです。